

平成30年度 第1回 瀬戸市小中一貫校開校準備委員会

次第

平成30年10月31日（水）

午後3時から

瀬戸市役所 大会議室

1 あいさつ

2 平成30年度の委員編成について 自己紹介

…資料番号1

3 議事

(1) カリキュラムの考え方について

…資料番号2-1

～2-3

4 報告

(1) モデル地区における通学について

1) 通学についての考え方

…資料番号3-1

2) 通学路の安全対策

…資料番号3-2

～3-6

(2) 校歌・校章・制服について

1) 校歌

…資料番号4-1

2) 校章

…資料番号4-2

3) 制服

…資料番号4-3

(3) その他

にじの丘だよりについて

Q&Aについて

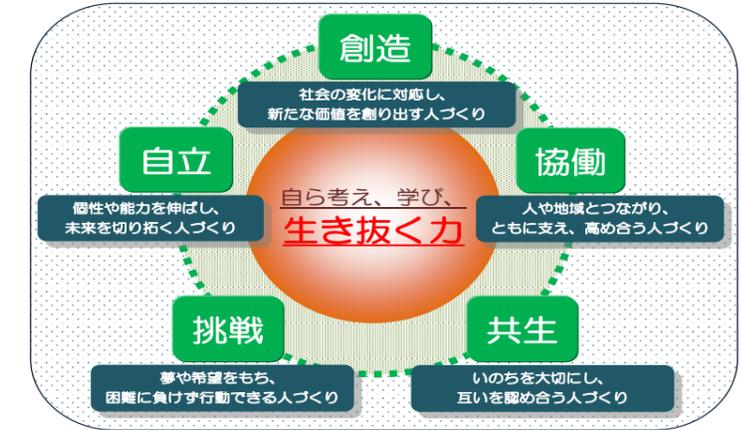
5 その他

平成30年度瀬戸市小中一貫校開校準備委員会 名簿

	氏名	所属及び役職	区分
委員長	木村 光伸	名古屋学院大学 国際文化学部長 教授	学識
副委員長	鈴木 賢一	名古屋市立大学 芸術工学研究科 教授	学識
委員	鈴木 健二	愛知教育大学 教育実践研究科（教職大学院）教授	学識
委員	中島 隆幸	瀬戸市小中学校PTA連絡協議会 会長	PTA
委員	宮地 千波	瀬戸市小中学校PTA連絡協議会 母親代表部長	PTA
委員	勝田 拓真	本山中学校 校長	学校
委員	片田 晃司	祖母懐小学校 校長	学校
委員	矢野 桂子	元 瀬戸市教育アクションプラン推進会議委員、元 校長	教育
委員	加藤 義人	道泉連区自治連合会 副会長	地元
委員	井上 勝太郎	深川連区自治会 会長	地元
委員	近藤 孝道	古瀬戸自治連合会 会長	地元
委員	松原 辰巳	東明連区自治連合会 会長	地元
委員	古田 孝	祖母懐連区自治会 会長	地元
委員	加藤 和守	瀬戸市公民館協議会 会長	地域
委員	深見 和博	瀬戸市教育委員会 教育長	市教委
委員	加藤 高明	瀬戸市教育委員会 委員	市教委
委員	西原 勇	教育サポートセンター センター長	市教委

委員数17名（敬称略）

瀬戸市が目指す人間像と5つの基本的な方向



にじの丘学園の基本コンセプト

「出会い・協働、学び合い」

学校と家庭・地域が、教育の当事者として、それぞれの役割を認識し、新たな組織の目的をもって協働する体制づくりを目指す

にじの丘学園 グランドデザイン (案)

教育目標

学び、つながり、挑戦する9年間

- | 自ら学ぶ | つながる | 挑戦する |
|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 自ら課題をもつ ○ 自ら考える ○ 学び合う ○ 学びを振り返る | <ul style="list-style-type: none"> ○ 人とつながる ○ 地域とつながる ○ 社会とつながる ○ 過去・未来とつながる | <ul style="list-style-type: none"> ○ 夢や希望をもつ ○ より高い目標に向かう ○ 失敗や挫折を乗り越える ○ 努力を継続する |

教育目標を達成するための 基本的な学校経営方針

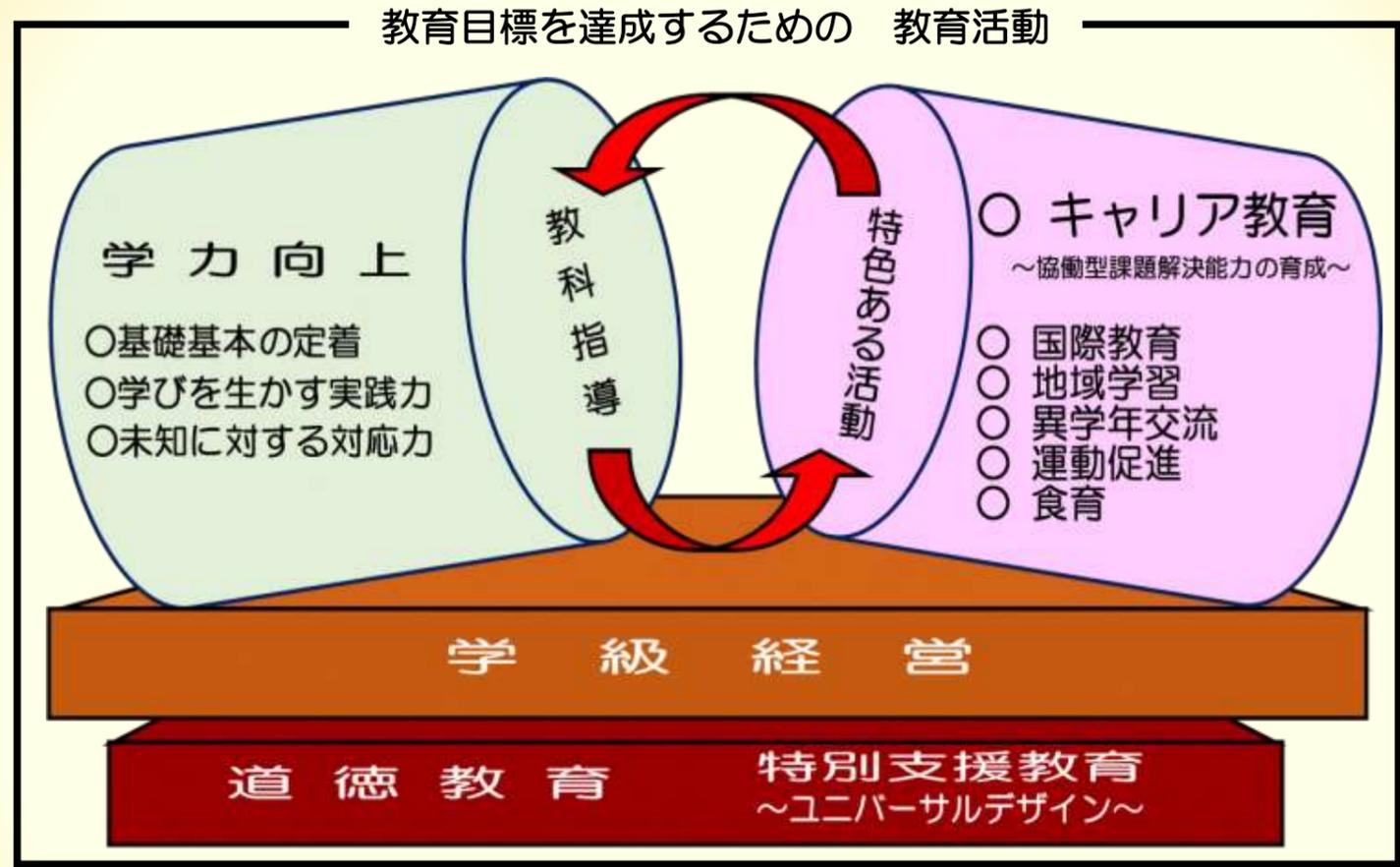
- 家庭、地域、学校が教育目標を共有し、協働する。
- 地域、大学、企業などと連携し、9年間を見通した教育を展開する。

地域の特徴

- 5地区が集まってできた大きな地域である。
- 地区によって異なるせともの文化が根付いている。
- 学校行事やPTA活動など、学校に協力的に関わっている。

子どもたちの現状

- 素朴で親しみやすく、前向きに学校生活を送っている。
- 地域の行事に積極的に参加し、地域とのつながりが強い。
- 真面目に学習に取り組むが、苦手意識もある。



教育目標を達成するための「地域」の役割

例 子どもたちの登下校の安全を守る

「地域」が行う具体的な活動

1 例 子どもたちの登下校時に通学路に立ち、交通事故や犯罪を防ぐ見守り活動を行う。

教育目標を達成するための「家庭」の役割

例 子どもの学習状況を把握する

「家庭」が行う具体的な活動

1 例 子どもの宿題や家庭学習のチェックを行う。

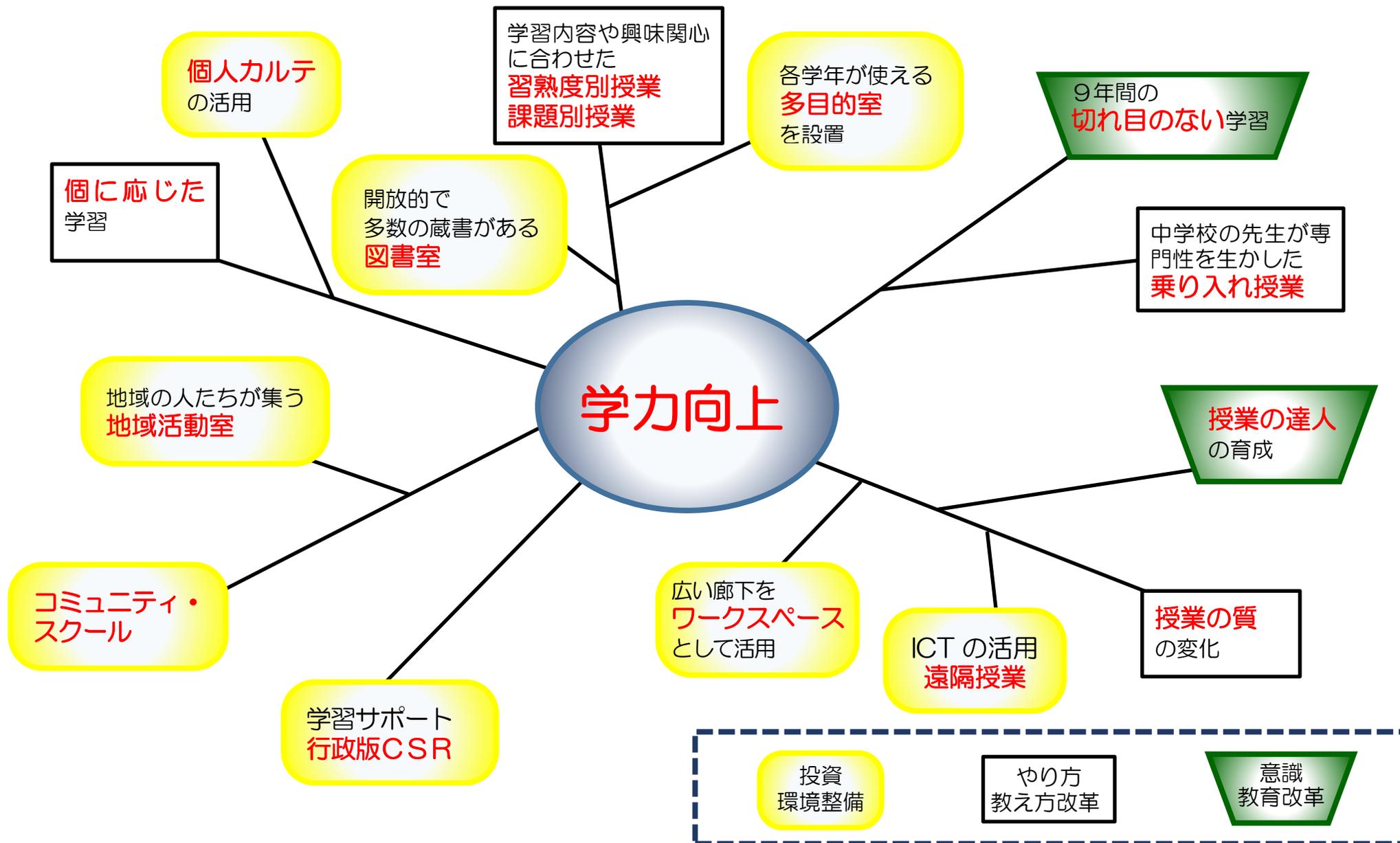
教育目標を達成するための 学校運営組織

コミュニティ・スクール
~学校運営協議会~

教育目標「学び、つながり、挑戦する9年間」

(案)

小学校6年間と中学校3年間の学びをつなぎ、全ての子どもたちの学力を伸ばします



教育目標「学び、つながり、挑戦する9年間」

(案)

キャリア教育、国際教育、地域学習、異学年交流、運動促進、食育で全ての子どもたちの生きる力を伸ばします



モデル地区における小中一貫校への通学について

1 進め方

モデル地区における小中一貫校新設に伴う通学の安全確保については、最優先課題の1つであると認識しております。

これまで、通学域が広がることから、新設校から直線距離で1.5kmを超える町内在住の児童・生徒に対しては、路線バス等の公共交通やスクールバス等の新たな通学手段も検討していく考え方を説明してまいりましたが、これからは、右に掲載している検討フローに沿って、通学の安全確保に関する検討を深化させてまいりたいと考えております。

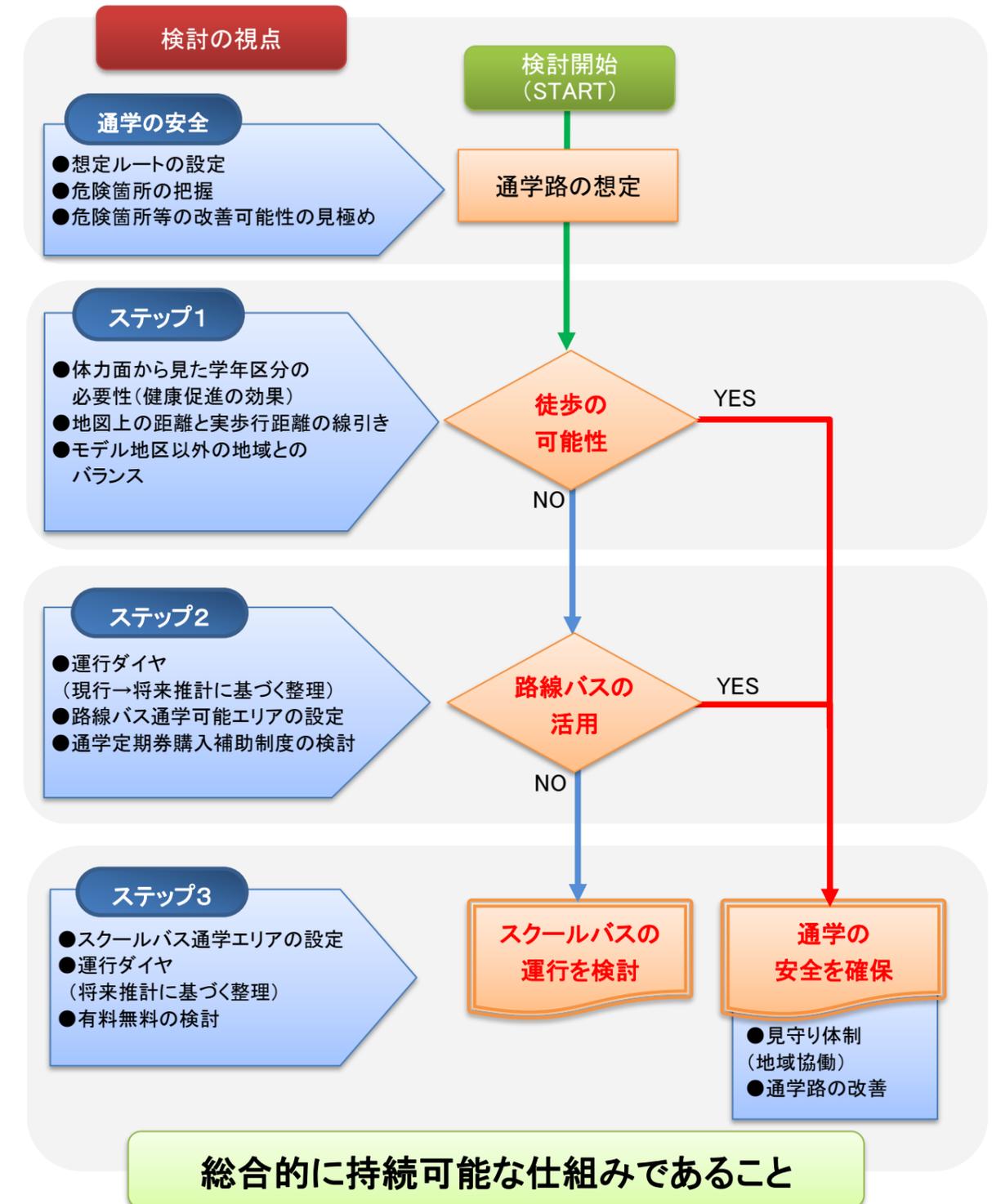
その第1段階として、本年夏休み期間に、国、愛知県、警察、学校、PTA、教育委員会等の関係者が連携して、新設校への新たな通学路の合同点検（通学路交通安全プログラム）を実施し、平成32年4月の開校までに、できる限りの安全確保対策を講じてまいります。

その後、下に掲載するスケジュールに沿って、平成29年度中に、対象地区のPTAの皆様をはじめ関係諸機関が集う検討会を開催し、通学路の安全確保や徒歩以外の通学手段の姿を明らかにし、その検討結果を、速やかにお知らせしてまいりたいと考えております。

2 スケジュール

年度	月	通学路	スクールバス
○ 平成29年度	6月	タタキ案地元提示	利用基準等 運行タタキ案地元提示
	7～8月	一貫校（想定）通学路安全点検	
	年度末	施工計画	関係者協議
○ 平成30年度	年度中	（仮称）モデル地区における通学の安全対策協議会	
		一部施工	関係者協議
	年度末	通学路案策定	運行計画策定
○ 平成31年度	年度中	（仮称）モデル地区における通学の安全対策協議会	
		施工	業務発注
○ 平成32年度	4月	運用開始	
	8月	一貫校通学路安全点検（以降3年ごと検証）	

モデル地区における小中一貫校の通学に関するフローチャート（案）



にじの丘学園 校歌について

1 校歌作成に関する考え方

- 子どもたちが愛着、親しみがもてるものとする
- 作詞作曲について専門家に依頼する
- 時代に合った曲調、歌詞とする
- 歌詞については、7校の子どもたちと教職員の思いを取り入れる

2 おおよそのスケジュール

- 2018 6月 作詞作曲者決定 依頼
7月 校歌作成開始
- 2019 8月 校歌完成
9月 校歌披露

3 作詞作曲者の条件

- 瀬戸市の教育の理念、にじの丘学園開校のコンセプトを理解する人
- これまでに校歌作成の実績がある人
- 瀬戸市に関わりのある人

4 作詞作曲者

弓削田健介

1982年福岡生まれ。

全国を旅しながら年間150～200回のコンサート&各地の合唱団に楽曲を提供している。

実績

- 平成26年度 日本PTA全国研究大会長崎大会あにてフィナーレの企画と演奏を担当
- 平成29年度 愛知県P連の研修会にてコンサート
- 平成29年度 長根小学校音楽集会にてコンサート
- 平成30年度 長根小学校土曜授業参観にてコンサート
- 平成30年度 祖東中学校文化祭にてコンサート
- 平成31年度 東明小学校教育講演会にてコンサート

- 平成25年度開校佐賀県佐賀市立「富士小学校」 校歌制作
- 平成29年度開校福岡県福岡市立「西都小学校」 校歌制作

にじの丘学園 校章デザイン案 募集要項

平成 32 年 4 月、道泉小、深川小、古瀬戸小、東明小、祖母懐小、本山中、祖東中の 7 校は統合し、小中一貫校「にじの丘学園」として開校します。このたびにじの丘学園の校章デザイン案を募集することといたしましたので、下の募集要項をご覧ください。新しい学園にふさわしく、地域の方々から永く親しまれ、愛される校章デザインの応募をお待ちしています。

募集要項

■応募資格

深川小、祖母懐小、道泉小、東明小、古瀬戸小、祖東中、本山中に在学中の児童生徒

■応募期間

平成 30 年 7 月 20 日（金）～平成 30 年 8 月 20 日（月）

■応募方法

◇応募用紙に必要事項を記入のうえ、各学校へ提出してください。

※応募用紙は所定のものをご使用ください。

■応募規定

◇応募作品は未発表の新規デザインに限ります。

◇応募作品はカラー、単色は問いませんが、校章はモノクロで使用することもありますので、配色を考慮して下さい。

◇応募作品にはグラデーション（ぼかし）は使用しないでください。

◇小学校・中学校で一つの校章を使用いたします。

■選考方法

みなさまに応募していただいた作品を基に、まずは約 20 点程度を教育委員会が選定します。その候補から 7 校の児童生徒で投票します。その結果を基に教育委員会でデザインを修正し、校章を決定・公表いたします。

■留意事項

◇応募された用紙は返却いたしません。

◇応募された作品が採用作品に決定した場合、当該作品に関する著作権（著作権法第 27 条および第 28 条に規定する権利を含む）、商標権、意匠権、その他の知的財産権、所有権等一切の権利を瀬戸市教育委員会に無償で譲渡することとします。

◇当該作品に関する著作権人格権その他一切の人格権を瀬戸市教育委員会およびその指定する者に対して行使しないものとします。

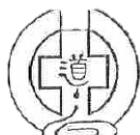
◇採用作品は、採用者の了承を得ず、補作・修正等する場合があります。

◇瀬戸市教育委員会等により商標・意匠の出願・登録が行われることがあります。また、採用作品の一切の権利は、瀬戸市教育委員会に帰属します。

◇ご提供いただきました個人情報は、本目的以外に使用いたしません。

◇採用者には、記念品を贈呈します。

■現在の 7 校の校章（参考）



道泉小



深川小



古瀬戸小



東明小



祖母懐小



本山中



祖東中

お問い合わせ先

瀬戸市役所 教育政策課

電話：(0561)88-2756

にじの丘学園校章デザイン案 応募用紙

① 作品

② 校章デザイン案についての説明

(どんな意味を込めて作品を描いたか、詳しく教えてください。)

③ 応募者氏名等

ふりがな		性別 せいべつ	男 ・ 女
児童生徒氏名 しめい			
学校名 がっこうめい	小学校 中学校	年	組

にじの丘学園制服・体操服について

1 概要

瀬戸市小中一貫校「にじの丘学園」を開校するにあたり、保護者や子ども達のニーズを鑑みながら、新たな制服を製作するもの

2 スケジュール(案)

【制服】

平成30年10月 制服のあり方についての素案完成
11月 製作者決定

～平成31年3月 素材・デザイン等、細部検討
平成31年3月 最終デザイン決定
平成31年4月 制服・体操服公表
平成31年秋～ 制服・体操服販売開始

【体操服】

平成30年10月 制服・体操服のあり方についての素案完成
12月 製作者決定

～平成31年3月 素材・デザイン等、細部検討
平成31年3月 最終デザイン決定
平成31年4月 制服・体操服公表
平成31年秋～ 制服・体操服販売開始

3 その他

制服・体操服のあり方やデザインを検討するにあたり、保護者や児童生徒及び教職員等へ必要に応じてご意見をいただくものとする。

制服等に関する考え方について

1 にじの丘学園 教育目標

「学び、つながり、挑戦する9年間」

2 制服等のあり方に関わる、教育目標の主な視点

「社会とつながる」

学校を社会の縮図と捉えます。社会通念に照らし合わせた学校生活を通して、社会で生き抜くすべを学びます。そうすることで、社会の一員としての自覚を高めます。

3 制服の選定に関する考え方

(1)金額について

現在の瀬戸市は「標準服」として詰襟、セーラー服を採用していますが、新制服を採用するにあたり、現状よりも良質で保護者負担が減ることが好ましいと考えています。

(2)着用学年について

- ・ 7年生（中学1年生）からの導入とします。

(3)制服のあり方に関する考え方

- ・ 一般的な中学生らしさに加え、社会性を加味したもの
- ・ 可動性、通気性、耐久性に優れたもの
- ・ 性別や季節など諸条件によって選択可能なもの
- ・ 子どもたちが着用したくなるもの

(4)その他

- ・ 開校から新制服を適用しますが、開校から数年間は既存の制服も利用できるものとします。
- ・ プロポーザルは事業者の選定を目的とし、制服のデザインについては、事業者選定後に保護者、子ども達や教職員の意見も伺いながら決定することとします。

【体操服について】

- ・ 制服同様、来年4月にデザインの公表ができるように、今後プロポーザルを実施する予定です。
- ・ チャックとフードがなく、色やデザインが派手でない、運動に適した服装が好ましいと考えています。

にじの丘だより

第1号

平成30年5月21日発行
瀬戸市教育委員会

瀬戸市では、教育環境の向上と児童生徒数の減少による課題解決に向け、本山中学校区と祖東中学校区をモデル地区に定め、小中一貫校として統合し、平成32年4月に小中一貫校を開校いたします。

今後、開校に向けた情報などを、この「たより」を通して、お知らせしていきます。

■ 学校名が決まりました

小中一貫校のコンセプトである「出会いと協働による新たな学び合いの創造～地域とともに歩む未来の学び舎～」に相応しいものや、分かりやすく、親しみやすいものであることなどを基準とし、市長と瀬戸市教育委員会が選定した結果、



となりました。3月22日には校名発表セレモニーを行いました。



深川小学校6年生 磯谷 春斗くん

「にじが7色であり、生徒が虹のように明るく楽しく学んでほしい。親しみのある名前なので多くの人に覚えてもらいたい。」

■ 開校に向けて取り組んでいます

瀬戸市小中一貫校開校準備委員会

モデル地区における小中一貫校の開校に向けた準備を円滑に推進することを目的に平成29年度に瀬戸市小中一貫校開校準備委員会を設置いたしました。平成29年度には4回実施いたしました。くわしい会議の内容は市のホームページをご覧ください。



第1回 平成29年6月29日(木)

本年度の進め方、施設概要、通学、小中一貫教育 など

第2回 平成29年8月28日(月)

施設基本設計、校名選定(案)、カリキュラム編成、ワークショップ概要(案) など

第3回 平成30年1月18日(木)

カリキュラム中間報告、学校運営、学校跡地活用 など

第4回 平成30年3月22日(木)

校名、教育目標、施設概要 など

小中一貫校カリキュラム編成

小中一貫校カリキュラム編成委員会会議では、小中一貫校カリキュラム編成委員が、瀬戸らしさを追求した教育活動についての提案の作成や、各研究会で作成された教育課程の整合・調整を行っています。

小中一貫校の施設

施設の建設は6月頃から順次始める予定です。まず始めに、東公園の構造物の解体及び敷地の造成工事を行います。東公園の代替施設については、市体育館（TEL：48-0500）にお問い合わせいただくか、ホームページ（<http://www.hamada-ports.com/seto/>）をご覧ください。



造成工事の後に、10月頃より校舎建築工事を行う予定ですが、詳細については、改めてお知らせさせていただきます。ご迷惑をおかけすることもあります。工事車両の移動は児童生徒の登下校の時刻を避けるなどし、安全には十分配慮させていただきます。ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。



通学

想定される通学路について、関係者による合同点検によって明らかになった危険箇所の対策をまとめ、今後順次実施していきます。

また、徒歩以外の新たな通学手段についても、地元のみなさまと協議を重ねながら、通学路の安全対策と並行して検討を進めていきます。検討の状況は順次お知らせさせていただきます。

モアスクール

モアスクールの実施場所について、にじの丘学園で実施するか、地元地区で実施するか、現在のモアスクール利用者（平成30年度利用予定者を含む）を対象にアンケート調査を実施しています。

この「にじの丘だより」は瀬戸市ホームページ（<http://www.city.seto.aichi.jp/docs/2016062200058/>）及び facebook ページ〈瀬戸市小中一貫校 にじの丘学園〉でもご覧になれます。

【お問い合わせ】 瀬戸市教育委員会（瀬戸市役所内） 小中一貫校PT

〒489-8701 瀬戸市追分町 64-1 TEL:88-2756 FAX:88-2755

E-mail:kyoikuseisaku@city.seto.lg.jp

にじの丘だより

第2号

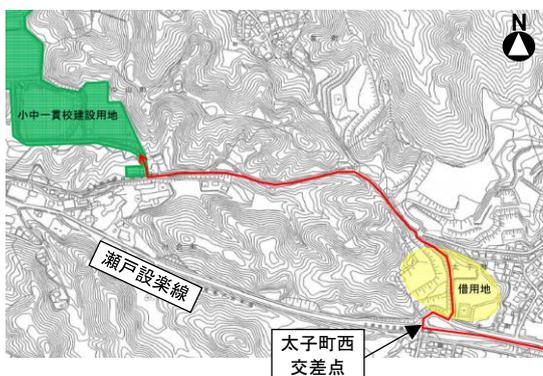
平成30年7月17日発行
瀬戸市教育委員会

■工事安全祈願祭

平成30年5月28日（月）瀬戸市立小中一貫校建設予定地（東公園内）において、施工業者主催による安全祈願祭が行われました。瀬戸市長はじめ関係者等、約40名が参列し、工事期間中の安全を祈願しました。工事の進捗状況についても、随時お知らせいたします。



なお、工事車両は右図の赤色道路を通ることを徹底いたします。ご迷惑をおかけすることもあります。工事車両の移動は児童生徒の登下校の時刻を避けるなどし、安全には十分配慮させていただきますので、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。



■校章・校歌・制服などについて

昨年度末に学校名が決まり、現在は校章や校歌、制服などの検討も進めているところです。

◇校章

夏休み期間中に現在の7校在籍の児童生徒のみなさまから校章のデザイン案を募集いたします。その応募していただいた作品を基に、まずは約20点程度を選定し、その候補から7校の児童生徒で投票します。その結果を基にデザインを修正し、校章を決定・公表いたします。

◇校歌

作詞作曲を『弓削田 健介さん』に依頼し、7校の児童生徒や教職員の思いを取り入れながら作成いたします。来年の秋頃に校歌の披露をさせていただく予定です。



◇制服・体操服

制服・体操服などについては、来年の4月に公表できるように、検討を進めております。今後、保護者や児童生徒のみなさまのご意見なども伺いながら、決定したいと考えておりますので、ご協力よろしくお願いいたします。なお、開校から数年間は、現在の小中学校で使用している制服、体操服、シューズ類等を使用できることとします。

この「にじの丘だより」は瀬戸市ホームページ(<http://www.city.seto.aichi.jp/docs/2016062200058/>)でもご覧になれます。

【お問い合わせ】 瀬戸市教育委員会（瀬戸市役所内） 小中一貫校PT

〒489-8701 瀬戸市追分町64-1 TEL:88-2756 FAX:88-2755

E-mail:kyoikuseisaku@city.seto.lg.jp

にじの丘だより

第3号

平成30年9月11日発行
瀬戸市教育委員会

■通学

通学の方法につきましては、裏面資料の進め方に沿って、現在検討や協議を行っています。



通学路交通安全プログラムで講じられた安全対策を活かす観点から、既存5小学校の通学路をベースに、通学路を設定したいと考えています。

徒歩による通学を原則としておりますが、通学区域が広がることにより、徒歩以外の通学手段が必要である場合（体力面から見た学年区分、実際に歩く距離や時間などから判断）は、既設の社会インフラの効果的・効率的利活用の見地から路線バスを活用できるように、バス運行事業者とも協議をしています。今後、登下校の時間等に合わせた運行ダイヤ、乗車料金に係る運賃補助の支援策なども併せて検討しています。

通学に関するQ&A

- 『路線バスの活用』とは、具体的にどの路線の活用を検討しているのか。
→ 名鉄バスの赤津線（瀬戸駅前～赤津）を活用することで検討を進めています。また、子どもたちの安全確保を考えながら、バス乗降場所についても検討をしています。
- バス乗車料金の運賃補助対象に該当しない場合、路線バスに乗ってはいけないのか。
→ 公共のバスになるため、乗車を禁止することはありません。

通学に関しては、各地域の事情も鑑み、子どもたちの安全確保を最優先に考えながら、保護者や地域のみならずと協議を重ね、安全面においても財政面においても総合的に持続可能な仕組みづくりを構築したいと考えています。

■部活動

2019年度（平成31年度）末の時点で祖東中学校、本山中学校で活動を行っている部活動については、にじの丘学園でも継続して活動を行います。

部活動のあり方、新たな部活動の開設、小学生が行う活動などについては、関係機関と意見交換をしながら、2019年中に方向性をお知らせいたします。



この「にじの丘だより」は瀬戸市ホームページ(<http://www.city.seto.aichi.jp/docs/2016062200058/>)及びfacebook ページ〈瀬戸市小中一貫校 にじの丘学園〉でもご覧になれます。

【お問い合わせ】 瀬戸市教育委員会（瀬戸市役所内） 小中一貫校PT

〒489-8701 瀬戸市追分町64-1 TEL:88-2756 FAX:88-2755

E-mail:kyoikuseisaku@city.seto.lg.jp

モデル地区における小中一貫校への通学について

1 進め方

モデル地区における小中一貫校新設に伴う通学の安全確保については、最優先課題の1つであると認識しております。

これまで、通学域が広がることから、新設校から直線距離で1.5kmを超える町内在住の児童・生徒に対しては、路線バス等の公共交通やスクールバス等の新たな通学手段も検討していく考え方を説明してまいりましたが、これからは、右に掲載している検討フローに沿って、通学の安全確保に関する検討を深化させてまいりたいと考えております。

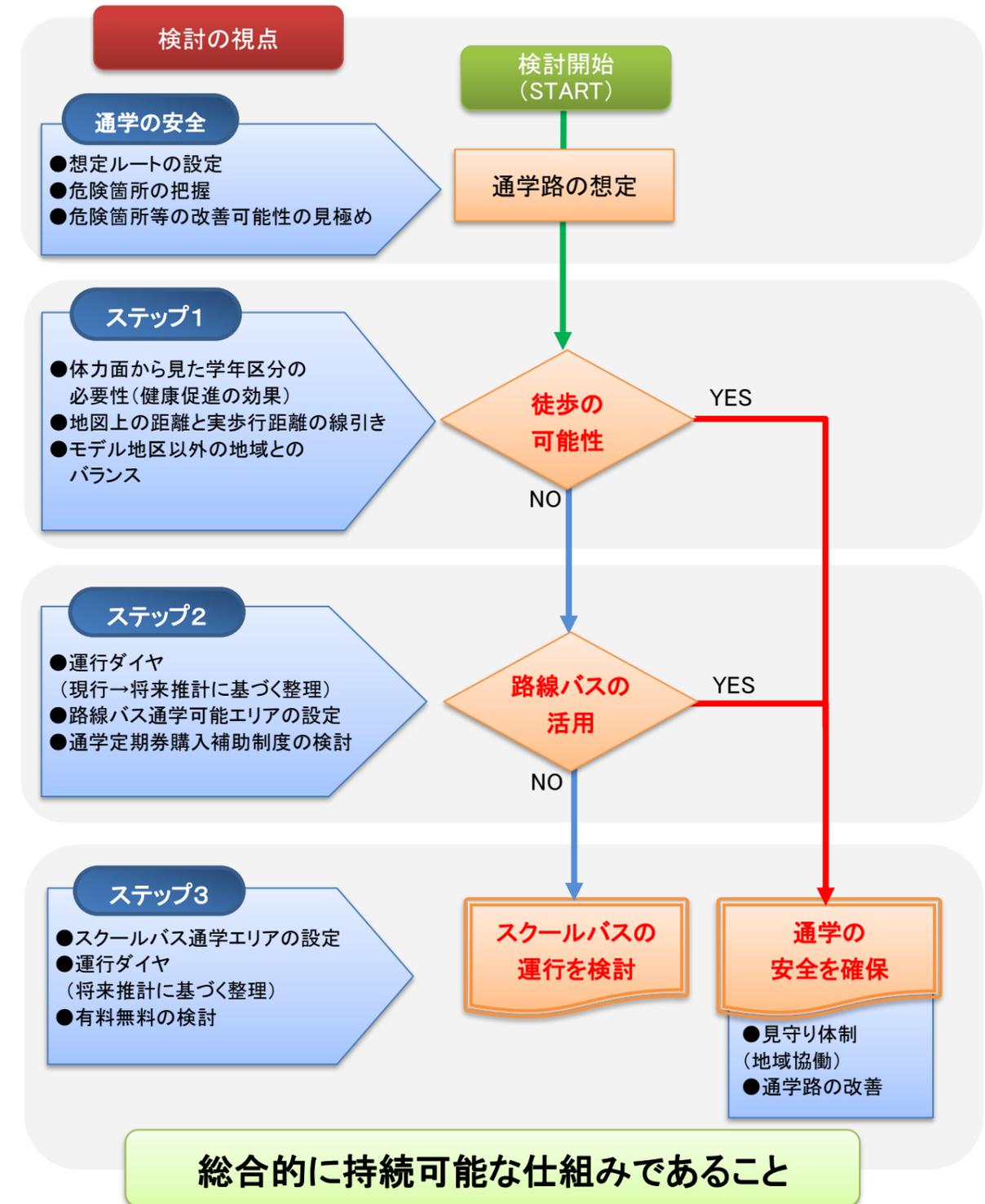
その第1段階として、本年夏休み期間に、国、愛知県、警察、学校、PTA、教育委員会等の関係者が連携して、新設校への新たな通学路の合同点検（通学路交通安全プログラム）を実施し、平成32年4月の開校までに、できる限りの安全確保対策を講じてまいります。

その後、下に掲載するスケジュールに沿って、平成29年度中に、対象地区のPTAの皆様をはじめ関係諸機関が集う検討会を開催し、通学路の安全確保や徒歩以外の通学手段の姿を明らかにし、その検討結果を、速やかにお知らせしてまいりたいと考えております。

2 スケジュール

年度	月	通学路	スクールバス
○ 平成29年度	6月	タタキ案地元提示	利用基準等 運行タタキ案地元提示
	7～8月	一貫校（想定）通学路安全点検	
	年度末	施工計画	関係者協議
○ 平成30年度	年度中	（仮称）モデル地区における通学の安全対策協議会	
		一部施工	関係者協議
	年度末	通学路案策定	運行計画策定
○ 平成31年度	年度中	（仮称）モデル地区における通学の安全対策協議会	
		施工	業務発注
○ 平成32年度	4月	運用開始	
	8月	一貫校通学路安全点検（以降3年ごと検証）	

モデル地区における小中一貫校の 通学に関するフローチャート（案）



瀬戸市立小中学校の適正規模・適正配置及び小中一貫校（一貫教育）

Q&A

本市小中学校の適正規模・適正配置及び小中一貫校（小中一貫教育）に関して、これまでに開催した意見交換会や地区協議会（自治会・PTA・公民館関係者などによる自主的なまちづくり検討組織）をはじめ、モデル地区の保護者を対象としたアンケート調査（平成 28 年 11 月実施）などで寄せられた主なご質問やご意見と、現時点におけるその回答をまとめました。ご参考にさせていただければ幸いです。

なお、今後も引き続き、保護者をはじめ、地域の方々、関係者との協議を重ね、詳細が決まったものについては、随時、回答を加筆・修正することがありますので、予めご承知おきください。

瀬戸市教育委員会



【Q&A 項目】

1	適正規模・適正配置	1
2	小中一貫教育	2
3	教育の質の向上	3
4	小中一貫校	3
5	立地	6
6	通学（バス）	7
7	子どもたちや保護者への配慮	8
8	地域とともにある学校づくり	8
9	安心して安全な学校づくり	9
10	隣接学校選択制度	9
11	学校跡地利活用	9
12	情報公開	10
13	今後の進め方	10



1 適正規模・適正配置

(Q) なぜ適正規模・適正配置を行うのか

(A) 本市では、第 2 次瀬戸市教育アクションプランの目指す子どもの姿として「自ら考え、学び、生き抜く力」を育むこととしています。そのためには、子どもたちは一定の集団の中で、多くの友だちや大人と接し、様々な体験をすることで、豊かな人間性を身につけるとともに、自主性や社会性を育む必要があると考えます。子どもたちの笑顔を増やし、子どもたちの未来に向けた“新しい瀬戸の教育”を創造していきます。

(Q) 小中学校の適正規模とはどの程度か

(A) 法令上、学校規模の標準は、小中学校ともに「12 学級以上 18 学級以下」とされています。ただし、「地域の実態その他により特別な事情があるときは、この限りではない。」とされており、本市におきましても、地理的条件や地域の状況などを考慮して適正規模の確保に努めてまいります。

(Q) 小規模校にも良さがあるのではないか

(A) 小規模校では、子どもたち一人ひとりに目が届くとともに、子どもたち同士の絆が深まりやすいなどのメリット（良い面）はありますが、「クラス替えができず、人間関係が固定化する」「部活動の種類が限定される」「運動会や音楽会など集団活動・行事の実施に制約が生じる」などの課題があると考えています。

(Q) 今回のモデル地区における小中一貫校の規模はどのくらいか

(A) 今回のモデル地区における小中一貫校の規模は、各学年 3 クラス程度を想定しており、子どもたちがいきいきと活動するとともに、教員がきめ細かい指導を実践するためには、最適な規模であると考えています。現在の小規模校のメリットを継承しながら、小中一貫校を運営していきたいと考えています。

(Q) この計画のこれまでの経緯を教えてください

(A) 適正規模・適正配置は、本市の教育行政において、長年の課題となってきました。児童生徒数がさらに減少する中、平成 26 年には瀬戸市小中学校 PTA 連絡協議会から、適正配置及び隣接学校選択制に関する要望書をいただき、また、市民からも同様の意見が多数あったことなどから、第 2 次瀬戸市教育アクションプランにおいて、適正規模・適正配置を基本施策の一つとして明確に位置づけ、本格的な取り組みを始めたものです。

2 小中一貫教育

(Q) 小中一貫教育とはどんな制度か

(A) 本市の小中一貫教育は、地域の力を基盤とし、9年間を見通して子どもを育てるものであり、これまで取り組んできた小中連携の考え方をさらに発展させるものです。今後は、市内すべての中学校区において、小中学校の9年間の義務教育を連続性・系統性のある取り組みとして指導していきます。

(Q) 本市が目指す小中一貫教育とは何か

(A) 本市で学ぶ子どもたちには、「自ら考え、学び、生き抜く力」を身につけてもらいたいと考えています。そのためには、連続性・系統性をもたせながら、地域の方々とともに義務教育の9年間の成長を多くの大人が見守り、支え合う教育環境づくりが必要であると考えています。

(Q) これまでの小学校、中学校の課題は何か

(A) これまでの義務教育においては、小中学校の教員間において、指導内容や指導方法の違い、児童生徒を理解するための情報交換や共通理解の不足など、小学校と中学校の間で指導が途切れることが課題となっています。

(Q) 小中一貫教育は、具体的に何をするのか

(A) 小中学校の9年間を一貫した教育方針のもと指導していくこととなります。例えば、小学校高学年から専門性の高い教科について、一部教科担任制を取り入れることをはじめ、小中学校の教員が一緒になり、チーム・ティーチングによる授業を行うなど、小学生から中学生への緩やかなステップアップとなるよう取り組みます。

また、児童生徒が交流することで、小学生が中学生への憧れをもつとともに、中学生には自覚や自尊感情が生まれることが期待できます。

(Q) 小中一貫教育のカリキュラムや教育方針はどのようになるのか

(A) 義務教育9年間を見通した学習指導を行うために、各教科・領域において連続性・系統性・横断性に配慮した教育課程を作成します。その中で、主体的・対話的で深い学びができる教育活動を展開します。



(Q) 小学 6 年生は、今まで最高学年としてリーダーシップを発揮できたが

(A) リーダーシップの育成には、学年の区分を生かして行事や取り組みを考え、それぞれの段階においてリーダー体験を積み重ねることができるよう工夫していきます。

(Q) 中学校入学は、心機一転の機会と考えるがどうか

(A) 本市が推進する小中一貫教育において、節目としての中学校入学は大切な時期だと認識しています。子どもたちにとって、必要なステップアップの機会を残しながら、少しでも緩やかにしようとするものです。

3 教育の質の向上

(Q) まずは、教育の質を向上させることが優先ではないのか

(A) 義務教育 9 年間を見通した連続性・系統性・横断性に配慮した教育課程の展開が、教育の質の向上につながると考えています。また、小中学校の教員による相互の授業参観や合同研修会を通して、互いの指導内容や指導方法などに関する理解を深めることで、教員の指導力を高め、さらなる教育の質の向上を目指します。

4 小中一貫校

(Q) 小中一貫校のメリット（良い面）・デメリット（良くない面）は何か

(A) 小中一貫校のメリットとしては、9 年間を見通した目標と一貫した教育課程のもと、小学校から中学校への円滑な接続と児童生徒の異学年交流などにより、密接な人間関係を作ることができ、その結果、いじめ・不登校の減少につながることが期待されます。また、教員同士の連携による教員の資質向上が図られます。

デメリットとしては、通学距離の拡大、転校生への対応などが挙げられ、その解消に向けた取り組みを行います。

(Q) 小中一貫校では、どのような教育に取り組むのか

(A) 小中一貫校では、義務教育 9 年間を見通した教育課程を編成し、指導内容や指導体制などの工夫により、小中学校の円滑な接続を図ります。また、子どもたち同士の交流や教職員などの連携や協働に重点を置きながら、グローバルな人材を育成するとともに、郷土学習、キャリア教育、環境教育など、地域と学校が協働した取り組みを推進していきます。

子どもたちの未来のために、瀬戸らしい教育を創造し、魅力ある学校づくりに取り組みます。

(Q) 統合前に合同授業や合同部活動は実施しているのか

(A) モデル地区の小中学校においては、各学校における現在の教育活動を大切にしながら、合同授業や合同行事などを行っています。例えば、小学校では、合同での道徳の授業、遠足、野外活動を行っています。また、中学校でも、開校時に一緒に学校生活を送ることになる生徒が、不安なく過ごせるよう、徐々に合同行事や合同部活動などを行っています。

(Q) 部活動はどのようになるのか

(A) 2019 年度（平成 31 年度）末の時点で祖東中学校、本山中学校で活動を行っている部活動については、小中一貫校でも継続して活動を行います。部活動のあり方、新たな部活動の開設、小学生が行う活動については、関係機関と意見交換をしながら、2019 年中に方向性をお知らせいたします。

(Q) P T A 活動はどのようになるのか

(A) モデル地区 7 校の現 P T A 役員が組織等を含め活動について検討をしています。2019 年度（平成 31 年度）には準備委員会を立ち上げ開校に向けての準備を進めていきます。

(Q) 学校行事はどのようになるのか

(A) これまでも各校で行われてきた学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深めていけるようにします。その中でも、小中一貫校の特性を生かし、1 年生から 9 年生の全ての学年が参加したり、地域の方々と協働したりするような、多様な人たちと関わることができる学校行事も実施していく予定です。

(Q) モアスクールは設置されるのか

(A) 放課後の子どもたちの居場所づくりについては、保護者のニーズを鑑みれば、小中一貫校においても必要な機能であると考えており、放課後学級の設置を予定しています。また、放課後児童クラブについては学校跡地の利活用も含め、小中一貫校の周辺に設置できるよう検討を進めていきます。



(Q) 特別支援教育に対する考え方を教えてほしい

(A) 現在、モデル地区の小中学校において行われている特別支援教育の内容を継承するとともに、小中一貫校ならではの継続した支援が行われるようにしていきます。特別支援学級においては、小中学校が同じ敷地内にあることで、小学校・中学校間の頻繁な交流が可能になり、9年間を見通した支援や指導が可能になります。また、通常の学級の児童生徒や地域の方々との交流を深め、より一層社会性を身につけられるようにしていきたいと考えています。

(Q) 校名や校歌などはいつ頃、どのようにして決まるのか

(A) 公募によりにたくさんの応募をいただいた中から、校名については「瀬戸市立にじの丘小学校」、「瀬戸市立にじの丘中学校」に決定しました。今後は「にじの丘学園」としてみなさまに親しんでいただき、校歌や校章などについても、なるべく早い段階に決め、開校に向けた様々な準備を進めるとともに、子どもたちや地域の方々に愛着をもっていただけるような学校づくりを目指しています。

(Q) 学区外から誰でもモデル地区の小中一貫校へ通学できるのか

(A) 「隣接学校選択制度」が平成 31 年度末をもって廃止されるため、小中一貫校の学区在住の児童生徒のみが通学できます。

(Q) 制服や体操服等はどうなるのか

(A) 制服・体操服などについては、平成 31 年の 4 月に公表できるように、検討を進めております。保護者や児童生徒のみなさまのご意見なども伺いながら、決定したいと考えております。なお、開校から数年間は、現在の小中学校で使用している制服、体操服、シューズ類等を使用できることとしています。

(Q) 小学生と中学生では体格の差が大きく危険ではないか

(A) 小学生と中学生の体格の差については、運動スペースの仕切りやプールの水深などに充分配慮する必要があると考えています。逆に、中学生が小学校低学年に配慮する姿が見られるようになる面などが期待できます。



(Q) 市内の他の小規模校も統合するのか

(A) 本市の教育アクションプランでは、「地域とともにある学校づくり」を大きな柱の一つとしており、単に人数が少ないからといった理由で学校を統合することは考えておりません。適正規模・適正配置については、地域の実情などを充分踏まえるとともに、こういった教育効果が得られるかも勘案しながら、検討していきたいと考えています。

(Q) 今後の少子化により、児童生徒数が減少しないか心配である

(A) 今後さらなる少子化の進行により、児童生徒数が減少することも考えられますが、まちの魅力を発信して、若い世代が住みたくなるまち「せと」を目指してまいります。



5 立地

(Q) どうして小中一貫校を東公園に新設するのか

(A) 新設校をどこにするかは、数か所の候補地を比較検討する中で、モデル地区のほぼ中央に位置し、誰もが通いやすく、また、子どもたちの教育環境を充実することができる場所として、東公園の敷地を活用することが最善と考えました。

(Q) 本山中・道泉小の場所で実現すれば良いのではないか

(A) 現在の本山中・道泉小での場所についても検討したものの、立地的にも偏りが大きく、また、本山中が借地であることから、困難であると判断しました。また、子どもたちの教育環境として、適正規模を確保すべきであり、小中一貫校を 2 校にすることは考えていません。

(Q) 東公園と聞いているが、具体的にどこにできるのか

(A) 東公園内の野球場、テニスコート、多目的広場、祖東中学校の敷地を活用します。祖東中学校については、2020 年 3 月までこれまで通り生徒の安全に注意し学校運営を行います。



6 通学（バス）

（Q）新しい学校への通学路の安全確保はどうなるのか

（A）通学路や通学時の安全確保は、最優先課題であると考えています。通学路の危険箇所などを把握し、出来る限り安全対策を講じます。また、通学時の見守りについても、新たな取り組みを検討し、児童・生徒の安全安心につなげてまいります。

（Q）徒歩通学が困難となる児童生徒の通学はどうなるのか

（A）通学については、基本的には徒歩通学となりますが、自宅から学校までの距離をはじめ、坂道などの地理的条件を勘案しながら、路線バスの活用を中心に検討をしています。現在地区協議会へ具体的な案をお示しており、今後保護者や地域のみなさまとの協議を重ねていきたいと考えています。

（Q）バス通学に対する考え方を示してほしい

（A）通学時の子どもたちの安全確保の観点から、路線バスの活用やスクールバスを運行させる予定です。対象としては、新しい学校から直線で 1.5 km を越える地域とし、おおむね徒歩通学で 1 時間を超える地域を一つの目安として判断したいと考えていますが、各地域の事情も鑑み、保護者のみなさまとの協議を重ねながら、決めていくこととなります。具体的な運行ルートや乗降時間などの運行計画について、子どもたちの安全確保を最優先に考えながら、保護者や地域のみなさまと協議を重ねてまいります。



7 子どもたちや保護者への配慮

(Q) 今、学校に通っている子どもたちに配慮してほしい

(A) 今後も引き続き、合同授業や合同行事など様々な活動を通して、各学校の児童生徒同士が触れ合う機会を増やし、適切な教育環境の整備などに努めていきたいと考えています。

(Q) 将来、小中一貫校に通学する未就学児の保護者の意見を聞いてほしい

(A) 平成 28 年度、モデル地区にお住まいの未就学児の保護者に向けた意見交換会やアンケート調査などを行いました。平成 29 年度は、せとっ子ファミリー交流館やパーティせと、また、就学時健診などで個別相談会を開催しました。こうした機会を通じ、未就学児の保護者のみなさまの心配ごとや不安の解消に努めております。なお、教育委員会では随時相談を伺っております。お気軽にお尋ねください。

8 地域とともにある学校づくり

(Q) 地域と学校の連携はどうなるのか

(A) 今回の適正配置で地域に学校がなくなるからといって、地域と学校の連携や協働が弱まることであってはならず、逆に、地域範囲が広がることにより、子どもたちがそれぞれの地域に根づいた多様な文化に触れ、より一層の連携や協働が期待できると考えています。そのため、にじの丘学園には、交流スペースや地域活動室を配置し、地域とともにある学校づくりを進めていきます。

(Q) 適正規模・適正配置により、地域との関わりが少なくなるのでは

(A) にじの丘学園では、様々な地域の力を生かした教育活動に取り組んでいきます。また、学校跡地においても、放課後や休日を活用した子どもたちと地域が関わり合う方策などについて、地域の方々とともに検討していきたいと考えています。

(Q) 適正規模・適正配置は、まちづくりと連動させなければならないのでは

(A) 第 6 次瀬戸市総合計画との整合性はもちろんのこと、本市の都市計画やまちづくりとの関わりは密接であると考えています。今後は、魅力ある学校づくりを推進するとともに、市全体の共通課題として、本市のまちづくりを推進していきたいと考えています。

(Q) これまでの地域の取り組みや地域文化を継承する必要があるのでは

(A) これまでも、対象校では地域の方々と関わり、それぞれの地域文化や歴史を生かした学習活動などを行ってきました。にじの丘学園においても、郷土学習や地域文化を継承する行事などを行っていきたいと考えています。



9 安心して安全な学校づくり

(Q) 学校は、安心して安全な教育環境でなければならないのでは

(A) にじの丘学園は、災害に強く、子どもたちや地域の方々にとって安全な施設であることはもちろんのこと、不審者や迷惑行為などに対する防犯対策などにも努め、安心して安全な教育環境を整備します。

10 隣接学校選択制度

(Q) 隣接学校選択制度は、具体的にどうなるのか

(A) 隣接学校選択制度は平成 31 年度末をもって廃止とし、その後は、制度開始前から学校選択が可能だった区域を中心とした特定区域における校区外通学制度に移行します。ただし、制度廃止後も、隣接学校選択制度により校区外の小学校に在籍している児童が、中学校に進学する時や、兄弟が現在隣接学校選択制度を利用中で、かつ翌年度も当該校に在学中の場合に限り、その弟妹である新入学生については、経過措置として引き続き、同校の選択を可能とします。

11 学校跡地利活用

(Q) 小学校の跡地はどう利活用するのか

(A) 小学校統合後の跡地利活用につきましては、現在、各地区協議会において、市としての方針案をお示ししながら、地域のみなさまと協議を重ねているところです。この方針案は、これまでの地区協議会などにおけるご意見やご要望を可能な限り踏まえつつ、第 6 次瀬戸市総合計画や瀬戸市公共施設等総合管理計画などで定めた市全体としての方向性や考え方をまとめたものとなります。

今後、みなさまとの協議を重ねながら、跡地利活用方針案をとりまとめていきたいと考えています。

12 情報公開

(Q) この計画に関する資料などについての詳しい情報を教えてほしい

(A) この計画に関する資料などについては、順次、市ホームページや広報などで公開し、情報をお知らせしていきたいと考えています。

(Q) 瀬戸市小中一貫校開校準備委員会やアンケート調査結果などを知りたい

(A) 瀬戸市小中一貫校開校準備委員会（平成 29 年度から）及び瀬戸市小中一貫校施設整備委員会（平成 28 年度）の開催状況やアンケート調査結果など、小中一貫校に係る様々な取り組み状況や情報などについては、随時、市ホームページでお知らせしています。また、「広報せと」なども活用しながら、市民のみなさまに周知を図っていききたいと考えています。

13 今後の進め方

(Q) 今後、PTA や地域住民との合意形成はどのように行われるのか

(A) 各地区における地区協議会において、にじの丘学園に関することをはじめ、学校跡地の利活用に関することなどについても協議を重ねています。こうした場において、教育をはじめ、子育て、まちづくり、市民協働、防災など、様々な観点から、協議することにより、市民のみなさまのご理解を深めていただきたいと考えています。

また、瀬戸市小中一貫校開校準備委員会を開催し、地域連携や地域協働の視点からの様々なご意見やご提案をいただきながら、地域とともにある学校づくりを目指しています。

(Q) 開校までのスケジュールはどのようになっているのか

(A) 平成 29 年度に学校施設の設計業務が終了しました。平成 30 年度は 6 月から造成工事、10 月から校舎建築工事などを行い 2020 年 4 月の開校を目指します。





2020 年 4 月に開校する「にじの丘学園」外観イメージ

「第 2 次瀬戸市教育アクションプラン（瀬戸市教育振興基本計画）」

瀬戸のすべての子どもたちが「瀬戸で学んでよかった」
瀬戸のすべての親たちが「我が子を瀬戸で育ててよかった」
瀬戸のすべての市民が「瀬戸で生きてよかった」

今後も、三つの基本理念の実現を目指し、「自ら考え、学び、生き抜く力」を育み、子どもたちにとって、より良い教育環境づくりを推進していきます。

*文中、改元を考慮し、和暦、西暦の混在している点をご容赦ください。